

ドライブ・バイを活用した配達車両による寒冷地でのスマート水道検針（青森市）

【地域課題】

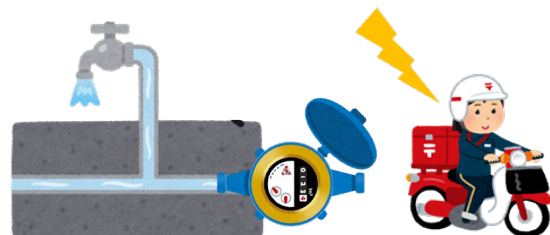
人口減少に伴い水道検針における検針業務の担い手不足が全国的な課題となっている。

また、寒冷地においては担い手不足に加えて冬期間、積雪等により現地での検針が困難となるため、検針自体を行えず見積水量での料金収受にならざるを得ない場合がある。

【実証地域】青森県青森市 【実証期間】令和6年10月1日（火）～10月31日（木）、令和7年1月15日（水）～2月28日（金） 予定

【実証内容】 郵便局の配達車両に無線通信機を搭載し、各世帯に設置されたスマート水道メーターからの検針情報を個別に受信する実証を積雪の多い寒冷地で行う。

郵便局



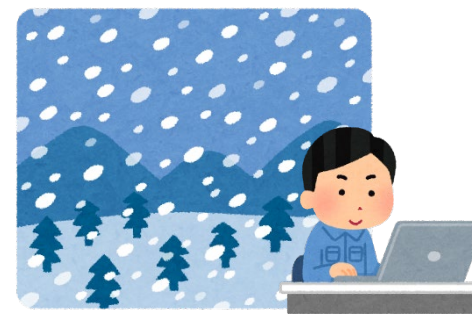
- 無線通信機を配達車両につけて走行
 - スマート水道メーターからの検針値情報を受信
- ⇒積雪の多い地域での耐用性を検証

検針データの提供



- ✓ 受信した検針情報を集計
- ✓ 水道メーター毎に利用水量を明示
- ✓ 配達車両の走行タイミング毎に利用水量データが蓄積

自治体



- ・ 目視で検針値を読み取れない場所・季節も検針可能
- ・ 検針に係る人的負担を軽減

ポイント

- ✓ 寒冷地においても配達ネットワークを有する日本郵便が、通常業務である配達作業に影響を与えない形で郵便車両を活用し検針値情報を受信することで、これまで検針値が読み取れなかった場所・状況（積雪や障害物がある・敷地に入れない等）下での検針を可能とする。
- ✓ また、正確な使用量を適時に把握する等、地域における検針の省力化・効率化を図る。